公益財団法人畜産近代化リース協会

令和７年度調査研究事業公募要領

　公益財団法人畜産近代化リース協会（以下「協会」という。）では、令和７年度に委託して実施する調査研究事業について、委託先を次のとおり募集します。

１　公募対象課題

【廃用乳処理の環境負荷低減のための調査研究】

２　公募対象課題の目的及び内容

（１）目　的

公募対象とする調査研究事業は、公益財団法人畜産近代化リース協会業務方法書（昭和　50年８月４日制定、最終変更令和５年２月27日）第3節調査研究第36条に規定されているとおり、原則として直接実用化を目的とする調査研究とします。

本年度は、同条（１）畜産に関する技術の改良又は新技術の開発に関する調査研究をその対象範囲とします。

令和７年４月に公表された「食料・農業・農村基本計画」においては、環境と調和のとれた食料システムの確立・多面的機能の発揮、うち農業生産活動における環境負荷低減の取組を進めることとしています。また、同月に公表された「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」においても環境と調和のとれた畜産経営、資源循環型畜産を推進することとしています。

今後、農林水産省は、堆肥、下水汚泥資源などの国内堆肥資源の利用拡大に向けた堆肥等の高品質化・ペレット化等による広域流通の促進、堆肥原料の備蓄等への支援等を実施することとしています。併せて、スマート技術の開発や持続的な食料生産を確保するため、みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組強化を図ることとしています。

当協会としても、政府、農林水産省のこうした展開方向の施策を推進し、畜産の振興に資するよう、調査研究を行うこととします。

（２）内　容

当協会の貸付先（最終借受者）の約８割は酪農家です。近年の酪農の生産現場においては、生乳・乳製品の需給ギャップや搾乳ロボットの急速な普及により、廃棄乳や牛乳成分を含んだ排水（併せて「廃用乳」と呼ぶ）が大量に産出され、これらの廃棄や排水処理などが大きな環境負荷要因となり、酪農経営の喫緊の課題となっています。現在、廃用乳を処理する新技術の開発は進みつつあるものの、その処理後の副産物についての資源化、有効活用までの開発には至っていません。こうしたことから、その副産物を循環資源として活用し、廃用乳処理装置の社会実装・普及を促進するため、副産物の成分・性状分析及び有効活用の方法の開発にかかる調査研究を行い、もって持続的な食料生産を確保するための環境負荷低減に向けた取組を支援することとします。

３　公募対象機関

調査研究事業の委託先は、民間企業とします。

４　委託先要件

以下の要件のすべてを満たしていることとします。

（１）畜産機械の開発・製造実績があり、国内で試作開発した技術を普及する能力を有していること。

（２）調査研究事業終了後は、応募機関の自己資金により、商品を広く普及に努めることが可能であること。

（３）実施計画（目標及び成果、実施方法及びスケジュール、資金等）が合理的に立案されていること。

（４）協会が定める契約書の様式で契約できること。

（５）応募機関の財務状況が、原則として以下に該当しないこと。

①　直近3期の決算期において3期連続して経常損失を計上している。

②　破産、再生手続開始、会社整理開始又は会社更生手続開始の申立てをしている。

（６） 協会等が必要に応じて行う助言等に傾注し、目標の達成に向け真摯に対応すること。

５　応募の手続き

調査研究事業の応募に当たっては、協会の業務方法書実施要領の定めるところにより、調査研究委託事業受託申請書（別紙様式）（調査研究実施計画書を含む）を、封書表面に「調査研究応募書類在中」と明記し、協会畜産事業部あて必ず郵便にてお申し込みください。

なお、応募に当たっては、以下の事項に十分注意してください。

（１）応募書類の提出部数

応募書類の提出部数は、正本1部、副本6部とします。

また、用紙はA4版とし、横書き、左とじにしてください。

（２）応募の際、次の資料又はこれに準ずる資料を添付してください。

① 応募団体・企業のリーフレット等（定款・規約及び沿革などを含む。）

② 当該事業に関する事業部、研究所等の組織等に関する説明書

（３）募集期間後に到着した応募書類は受け付けませんので、十分に余裕を持って発送してください。

（４）提出された書類は、返却しません。

（５）応募書類の提出以降に責任者等の異動が判明した場合には、速やかに協会に連絡願います。

６　重複応募の制限

応募機関が、上記２の課題の目的及び内容で、既に他の制度による助成を受けているとき（採択が決定している場合を含む。）、又は助成を受けていることが判明したときは、選考の対象から除外され、採択の決定又は委託契約は取り消されます。

他の制度への応募段階（採択が決定していない段階）での本事業への応募は差し支えありませんが、他の制度への応募内容、採択の結果によっては、本事業の選考対象から除外され、採択の決定又は委託契約を取り消すことがあります。なお、委託契約が取り消された場合、委託費の一括返済、損害賠償等を求めることがあります。

７　委託期間及び委託費の限度額

（１）委託期間

調査研究事業の委託期間は、原則として1年以内とします。ただし、２年を上限とし継続して委託することがあります。

（２）委託費の額

委託費の額は、５００万円以内とします。

８　審査及び採択

（１）審査の方法

委託先の選考は学識経験者や専門家で構成される調査研究委員会において行い、（３）に示す審査の観点から総合的に評価し、委託先を決定します。

なお、調査研究委員会による審査は原則非公開としますが、応募課題に関して利害関係のある委員は当該課題の審査から排除されます。

（２）審査の手順

審査は、「４ 委託先要件」及び必要書類の整備状況について審査します。また、必要に応じ、応募機関の担当者に対し面接を行い審査します。

（３）審査の観点

審査は、「４ 委託先要件」の(1)(2)及び(3)について重点を置いて実施します。

（４）審査結果の通知

　　　審査の結果は、応募機関に文書をもって通知します。

（５）採択予定委託先数

委託先は、原則として、１企業を予定しています。

（６）その他

審査の経過については、お知らせしません。また、応募書類等は返還しません。

９　委託契約

1. 委託先として採択された応募機関は、協会の業務方法書実施要領の定めるところにより、協会と単年度の委託契約を締結します。

なお、複数年事業における次年度以降の事業継続については、毎年度末の事業評価の結果及び次年度の実施計画等を総合的に勘案して決定し、再度単年度の委託契約を締結して行います。

1. 委託契約の締結に当たっては、応募の際に「5　応募の手続き」により提出いただいた調査研究委託事業受託申請書の内容について変更を求めることがありますので、ご了知願います。

１０　虚偽の申請・虚偽の報告、その他不正受給に対する措置

調査研究事業において、応募内容や採択後の報告内容で虚偽行為が明らかになった場合、また委託費の不適切使用、あるいは不正な手段を用いて委託費を受領した場合には、事業を中止させるとともに委託契約を取り消し、委託費の全額又は一部返還の措置を講じます。

１１　受託機関の責務等

委託契約の締結後は、事業の実施及び支出される委託費の執行等に当たり、以下の条件によることとします。

（１）開発の推進

受託機関は、事業の推進全般についての責任を持つものとします。

（２）経理管理

受託機関は、委託費の支出について適切な経理管理を行うものとし、金額及び内容を調査研究実施計画書の区分・項目ごとに整理の上、証拠書類を対応づけ管理してください。精算の確認のため、年度末に証拠書類を添付して実績報告書を提出していただきます。

また、自己資金による支出が生じた場合は、「委託費対象分」と「自己資金分」の区別が分かるよう管理してください。

（３）事業成果の検証及び評価（単年度評価及びフォローアップ評価）

協会は、年度末に調査研究委員会を開催し、実施計画の達成度等に基づき当該年度の事業評価を行います。複数年事業の場合は、次年度の事業の継続に関しても判定を行います。

（４）委託費で取得した財産

委託費により受託機関が機械等の財産を取得した場合、その所有は、原則として協会に帰属します。そのため、受託機関は、当該機械等を善良なる管理者の注意をもって管理し又は使用することとします。

なお、法定耐用年数を経過した際は、所定の手続きを行った上で、無償譲渡します。それまでに第三者への貸与等が発生する場合は、協会の承認が必要となります。

（５）研究開発成果の発表

受託期間中に、受託機関において開発技術の内容が公知となりうる外部発表（学会、講演会、展示会等）を行う場合や、外部から取材の申し込みがあった場合は、事前に協会まで連絡してください。

なお、事業が終了し、事業成果が得られた場合は、産業財産権に配慮しつつ国内外の学会、マスコミ等に広く公表し、積極的に成果の公開・普及に努めることとします。

１２　産業財産権の帰属及び収益納付

（１）　調査研究事業により得られた産業財産権については、原則として、受託機関に帰属します。

（２）　受託機関は、調査研究事業の実施により相当の収益が生じたときは、当該収益の状況に応じ、別

に定めるところにより算定される金額を協会に納付していただきます。

１３　個人情報の取扱い

協会は、「個人情報の保護に関する法律」に基づき「公益財団法人畜産近代化リース協会の保有する個人情報管理規程」を定め、取得した個人情報を適切に管理しています。

応募書類は、応募者の利益の維持、その他の観点から、審査関係以外の目的には使用せず、応募内容に関する秘密を厳守します。

１４　実績報告書

受託機関は、所定の実績報告書を協会が指定する日までに提出するものとします。実績報告書には、次のものを添付してください。

（１）調査研究の報告書

（２）経費の支出にかかる証拠書類（請求書・領収書等の写し）

（３）その他協会が必要とする書類

１５　委託費

（１）委託費の交付

委託費は原則として一括精算払いにより交付しますが、概算払いを希望する場合は委託費の50％

以内の額を概算払いします。

年度末に提出された実績報告書及び必要書類を審査し、協会が適切と認める場合に交付金額を

確定の上、指定の口座に振り込みます。

（２）委託費の範囲

調査研究事業における委託費の範囲は、事業に必要な直接経費であって、委託契約書で定める

委託費の範囲内で、協会が認めたものを対象とします。

以下の経費は委託費の対象にならず、自己負担となります。

① 不動産（建物・土地等）の建築や購入、施設の改造等に係る経費

② 販売費、金利等の営業外費用、減価償却費等

③ 委託期間中に発生した事故・災害のための経費

④ その他委託事業の実施に関連のない経費及び協会が適切でないと判断した経費

１６　スケジュール

|  |  |
| --- | --- |
| 期　　日 | 内　　容 |
| 令和7年8月　　日 | 公募案内・受付開始 |
| 令和7年9月5日 | 応募受付締切り（協会畜産事業部あて郵便必着） |
| 令和7年9月 | 委託先の採択決定通知（委員会終了後） |
| 令和7年9月 | 委託契約の締結 |

なお、期日は目安であり、諸般の事情により変更されることがあります。

別紙様式

**令和７年度 調査研究委託事業受託申請書**

令和　　年　　月　　日

公益財団法人　畜産近代化リース協会

　理事長　　高　橋　孝　雄　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　所在地（郵便番号、電話番号）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　団体名称

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（ﾌﾘｶﾞﾅ）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表者氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　㊞

令和７年度調査研究委託事業の対象課題として受託したいので、公益財団法人畜産近代化リース協会業務方法書実施要領第３章第３の規定に基づき下記のとおり申請いたします。

なお、本受託申請を委託事業として決定の上は、この委託事業に係る委託費　　　　千円の交付方よろしくお願いいたします。

記

１　調査研究課題名

　　【廃用乳処理の環境負荷低減のための調査研究】

２　委託費希望額

３　調査研究課題に関する研究情勢

　(1)　調査研究課題に関する国内及び外国の研究の状況

　(2)　申請者の本課題に関する調査研究実績及び技術的優位性

　(3)　申請試験研究と特許又は実用新案との関係

　(4)　申請試験研究の技術的、経済的効果及び企業化の見通し

４　調査研究実施方法　　　　別紙「調査研究実施計画書」のとおり

５　収支予算書

６　添付書類

　(1)　申請者の略歴（法人又はその他の団体にあっては、定款等規約及びその法人の沿革）

　(2)　最近時の決算報告書

　(3)　試作開発した機械施設の設計図又はカタログ若しくは写真

　(4)　申請年度に他の補助金、委託費等の交付申請を行っている場合は、その概要

　(5)　従来当協会から受けた補助金、委託費等についての概要

別紙

**調査研究実施計画書**

１　調査研究課題名

２　調査研究の目的とその理論

３　調査研究実施方法

４　調査研究を実施して達成できる目標

５　実施計画

　(1)　調査研究組織

　　①　主任担当者の氏名、所属、略歴及び研究実績

　　②　補助担当者の氏名、所属、略歴及び研究実績

　　③　他よりの指導、協力者の氏名、所属及び協力事項

　(2)　調査研究に必要な基幹的施設とその整備状況

　(3)　期待される調査研究成果

　　①　実用化の範囲、実用化した場合の経済効果等

　　②　産業財産権等の取得

　(4)　実施内容

　　　調査研究を実施する場合に、その内容となる調査研究事項ごとに実施内容の欄に収支予算書の支出項目と数量に関連づけて記載のこと。

|  |  |
| --- | --- |
| 調査研究事項 | 実　　施　　内　　容 |
|  |  |
|  |  |

　(5)　実施日程表

　　　　　実施期間　　　令和　　年　　月　～　令和　　年　　月

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 日程  実施事項 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

　(6)　調査研究実施場所

　　　調査研究の実施に当たり、農場等他の場所を利用する場合は、その理由と実施場所の名称及び所在地

６　収支計算書

　(1)　予算総括表

　　【収入】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区　　分 | | 金額（円） | 備　　　　考 |
| 協会委託費 | |  |  |
| 自己調達 | 自己資金 |  |  |
| 借入金 |  |  |
| その他 |  |  |
| 小　　計 |  |  |
| 合　　　　計 | |  |  |

　　　（注）備考欄には、借入先、その他の出所を記入のこと。

　　【支出】

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　　目 | | 金額  （円） | 委託費算定率（％） | 委託費  （円） | 備考 |
| 設備経費 | 機械施設費  その他の経費 |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |
| 調査研究費 | 技術料  原材料費  飼料、試薬、機材等の消耗品費  施設使用料  旅　費  会議費  謝　金  その他の経費 |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |
| 合　　　計 | |  |  |  |  |

　(2)　支出明細

　　　（項）設備経費

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 目 | 種類名 | 仕様 | 数量 | 単価（円） | 金額（円） | 備考 |
| 機械施設費 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| その他の経費 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 合　　計 | |  |  |  |  |  |

　　　（注）１　機械施設費………機械施設の購入、増設、改良、据付けに要する経費

　　　　　　２　その他の経費……建物、構築物等の改修に要する経費

　　　　　　３　備考欄には、積算基礎、調達方法等を記入のこと。

　　　（項）調査研究費

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 目 | 種類名 | 仕様 | 数量 | 単価（円） | 金額（円） | 備考 |
| 技術料 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 原材料費 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 飼料、試薬、  器材等の消耗品費 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 使用料 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 旅費 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 会議費 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 謝金 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| その他の経費 |  |  |  |  |  |  |
| 小　計 |  |  |  |  |  |
| 合　　計 | |  |  |  |  |  |

　　　（注）１　技術料は、調査研究に従事する研究者及び研究補助者の技術料とする。

２　備考欄には、積算基礎等を記入すること。